

「日本内視鏡外科学会」理事長退任にあたって

日本内視鏡外科学会
北野正剛

昨年12月の松田公志会長による第28回総会時に開催された理事会において理事長職を無事全うし退任しました。2010年1月より6年間、理事役員、評議員の皆様の温かいご理解とご支援のおかげと心より感謝しています。初代理事長出月康夫先生、前理事長北島政樹先生と日本を代表する重鎮の後を、地方大学の一教授に過ぎない小生が理事長職に選任されたことは誠に本学会が広く開かれた学会であることを物語るもので、大変光栄なことでした。北島前理事長のもとで多くの新たな事業が始められ、内視鏡外科診療ガイドラインの制定、内視鏡手術支援ロボット手術導入に関する提言、医工連携によるものづくりコモンズとの連携など、創られた道を地道に整備して本会の発展のため微力ながら尽くしてまいりました。会員数もこの6年間で10,000名から13,000名をうかがうまでになりました。世界に誇れる技術認定制度など本会に入会することの意義が広く理解されている結果であると考えています。



現在、学会活動の国際化は必須のものと捉えられ、多くの学会がそれぞれの立場で国際展開を行っています。本会では2009年から国際名誉会員制度を導入しすでに20名の国際的に指導的立場の外科医を招聘しています。また、英文誌を発刊しMEDLINEへの収載を経て、内視鏡外科ガイドラインを掲載している今年こそインパクトファクター取得の好機ですので、会員の皆様にはぜひ他英文誌への投稿の際の引用につき特段のご協力をお願いします。

また、今年の11月には第15回世界内視鏡外科学会(WCES)が上海で開催されます。その際、2020年の東京オリンピック直後に第17回大会を招致することをすでに本会理事会で決定し評議員会で承認されました。東京オリンピック開催決定を受けてIFSES理事会のほとんどのメンバーに説明し賛同を得たことで立候補表明は本会のみです。小生が会長として開催する上海での理事会で正式承認されると確信しています。2008年第11回横浜大会から12年を経て再度開催することで本会の力を世界に示すことができると心待ちにしています。

最後に本会の更なる発展を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。